



在宅療養生活をするうえでのケアマネジメントとは…

Kさん77歳は、名古屋で50年間エステサロンを切り盛りしていたが、昨年脳梗塞で倒れ、麻痺が残り全く動けなくなってしまった。癌も再発しており、命の危険性は大きかった。

一人娘は「お母さんの介護がしたい」と、調布市内の病院へ転院させた。口から食べることができず太い血管に針を刺し中心静脈栄養を行い、自分では痰が出せないため常に吸引が必要な状態であった。更に娘は小学生になる2人の子どもがいて「子育てと介護の両立ができるだろうか？」と悩み、途方に暮れ『ケアホーム希望』に相談。私たちはどのように支えたらよいかとチームで検討した。

「訪問看護」と「訪問診療」の連携が図れ、特に「訪問診療」については入院もできる病院を持っている医師に相談、依頼した。『ケアホーム希望』の「訪問看護」と「訪問介護」のサービスを利用し、医師、看護師、介護職員と常に連携を図りケアを行う。

「訪問介護」に入る職員は吸引等の研修を受けた職員が担当し、娘の介護環境が崩れた時には「泊まり」のサービスが利用できるようにも調整する。また、本人の苦痛が大きい時には、すぐ入院ができるようベッドを確保してもらう等の在宅療養生活を整え、娘の精神的な安定が図れるようにプランを検討した。更に娘の介護負担を軽くするため日中は「訪問看護」「訪問リハビリ」「訪問介護」が1日に数回入り、清潔ケアから吸引、中心静脈栄養等の管理を行う。

そして、主に娘の介護は夜間の見守りや排泄ケア、吸引等を行う。病状が悪化した時には、看護師と医師が緊急の対応をする等、サービスを整え、在宅療養生活をみんなで支える。



1週間の訪問スケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~10:00	看護師	看護師	看護師	看護師	看護師	看護師	看護師
			訪問リハ		訪問リハ		
13:00~14:30	訪問介護	訪問介護	訪問介護	訪問介護	訪問介護	訪問介護	訪問介護
				訪問診療 (週1回)			
16:00~17:00	訪問看護	訪問看護	訪問看護	訪問看護	訪問看護	訪問看護	訪問看護

※ 17:00 以降の夜間は毎日 娘さんが対応していました

余命3ヶ月と言われ娘たち家族が暮らす家に帰り、孫たちに囲まれると表情は明るくなり、うなずいたり、片言でコミュニケーションも取れるようになった。孫たちは「ばあばのベッドと一緒に寝る」とベッドの中に入り込み川の字になって寝たりもした。そんなほのぼのとする風景にホッとすると日々がいつまでも続きますようにと祈るばかりだが…。

Kさんの在宅療養生活に終止符を打つ時が来た。孫は「ばあば…死んじゃうの？」

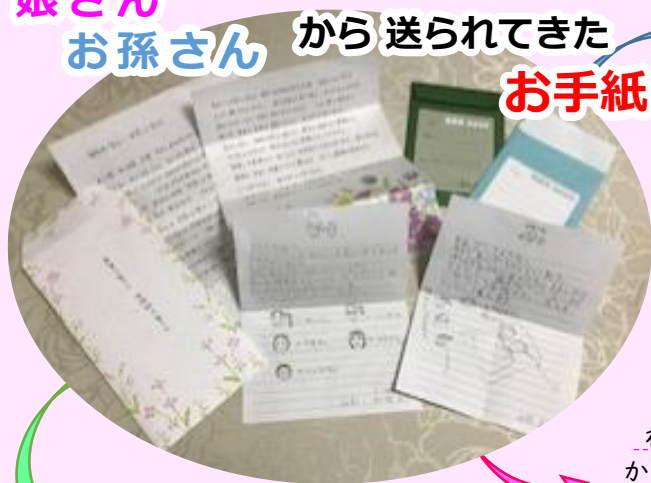
「ばあば…ありがとう…大好き」と大声で叫び、孫たちの顔は涙でぐしゃぐしゃになった。娘は子ども達をグッと抱きしめながら「お母さん本当にありがとう」と。大好きな娘家族に見守られ、Kさんは天国へと旅立って逝った。在宅療養生活6ヶ月であった。

私たちはKさんの最期に立ち会えたことに感謝している。Kさん、天国で安らかに。



娘さん
お孫さん から送られてきた

お手紙



娘さんからの手紙 ...

昨年夏に母が入院してからずっと先も見えず、淋しそうな母を病院にしている状況にも気持ち
沈んでいた中、たどり着いた結論が在宅でした。

そもそも在宅介護をするとは思ってもなく、右も左も分からない中で、『ケアホーム希望』の看護師
の皆さんや職員の皆さん達に出会って 本当に救われました。

心から感謝しています。

看護師の皆さんや介護職の皆さんの手厚い対応で、私にはほとんどできることはなかった介護生活で
したが、母が亡くなる最期の時間まで家族のそばにいて一緒に過ごす時間を持たせた事を想うと、なんて
幸運な時間をいただけたのだろうと感じています。本当にありがとうございました。

Kさんが亡くなってしばらくしてから
娘さん、お孫さんからお手紙をいただいた
のでご紹介させていただきます。

かんごふさんたちへ

今までありがとうございました。

ぼくは元気なので見かけたら話しかけてください。
血もつながっていないのにいろんな人を家族みた
いに思えるところに憧れます! (孫小5)

かんごふさんへ

今までバアバのめんどうを見てくれてありがとう
ございました。

また、見かけたら話しかけてください。

わたしも 将来みなさんみたいな、やさしくて明るい
かんごふさんになりたいです。

これからもがんばってください。 (孫小3)

私たち
春のバラフェスタへ

バラより
私たちが
きれいでしょ?

バラのアイス
美味しいね~

これは何味の
アイスだい?

行ってきました!

神代植物公園

